

(仮称) 石狩・八幡小学校設立準備委員会 第2回会議【質疑要旨】

・日時 平成29年10月5日(木) 18:30～19:45

・会場 八幡コミュニティセンター

・出席者

〔委員長〕

戒屋 健一 学識経験者・学校支援地域本部事業・地域コーディネーター

〔保護者〕

釣本 明雅 石狩小学校PTA会長

熊倉 哲也 八幡小学校PTA会長

鈴木諭美江 聚富小中学校PTA副会長

富木 智之 石狩中学校PTA会長

熊倉 可菜 くるみ保育園父母の会(同会の会長 上家雅仁氏の代理出席)

工藤 隆司 聚富保育園 父母の会

〔学校関係者〕

原田 伊織 石狩小学校校長

三島 哲 八幡小学校校長

青山 司 聚富小中学校校長

本田 明美 石狩中学校校長〔副委員長〕

〔学校支援推進員〕

中井 元 石狩小学校学校支援推進員

菊地 功 八幡小学校学校支援推進員

〔町内会代表者〕

牧野 勉 むつみ町内会会長

朝倉 勲 虹が原町内会会長

※以上15名出席

〔教育委員会事務局〕

佐々木生涯学習部長

松井教育指導担当次長

安崎総務企画課長

佐々木学校教育課長

照山指導担当参事

清水市民図書館副館長

松永総務企画課主幹

古屋総務企画課主査

石黒学校教育主事

※傍聴者4名

【議事】

○ 委員長あいさつ

○ 新しい学校づくりの検討協議①

提案1

特色ある教育活動、ふるさとに関する学習、コミュニティ・スクール、教育目標・カリキュラム

⇒ 「(仮称)石狩・八幡小学校設立準備委員会 教育課程部会 設置要項(案)」について、別添資料に基づき松永主幹より提案説明。

【主な質問・意見(要旨)】

(A委員)

質問というより要望です。教育課程の編成について、(仮称)石狩・八幡小学校の教育課程は関係2校の校長によって編成するとあります。2校は、八幡小と石狩小ということになりますが、本校と八幡小の子どもに加えて、虹が原の子どもも新しい学校に来ることになっています。そうすると聚富小学校も関わってきますので、聚富小もこの関係校に加えていただくことが望ましいと思います。

また、教育課程部会の設置要項(案)の中に「小中連携教育の一層の充実」ということが述べられています。厚田のような施設一体型の義務教育学校ではありませんが、やはり小中連携という意味からいけば、石狩中学校との関わりも出てきますので、八幡小と石狩小に加えて、聚富小中と石狩中の校長先生とも一緒に話し合っていけばいいのではないかと考えます。

(委員長)

確かに、石狩小学校と八幡小学校の統合として話が進んできましたので、教育委員会からこのような提案がありましたが、原田校長先生からの提案のように、聚富小中と石狩中を加えて、教育課程部会を設置するという点について、いかがでしょうか。(⇒ 各委員からの同意あり)

(委員長)

それでは皆さんの同意をいただいたということで進めたいと思います。

(市教委：松永主幹)

いただいたご要望を踏まえまして、聚富小中学校と石狩中学校を加えた形で設置要項(案)の修正についてご了解をいただきたく、お諮りいたします。

(委員長)

いかがでしょうか。(⇒ 各委員からの同意あり)

それでは、そのように設置していただきたいと思います。

提案2

校名や校章、校歌の決定方法など

⇒ 「校名の決定方法」について、別添資料に基づき、安崎総務企画課長より提案説明。

【主な質問・意見（要旨）】

(B委員)

案2（公募により決定する）の例として、子ども達の意見を尊重することに加えて、地域の声も募集するということがあるので、まず公募をして、その後に設立準備委員会である程度絞っていく形がいいのではないかと思います。

(委員長)

先ほど市教委から説明がありましたが、この地域の歴史を考えてみるという点に留意した場合、この地域にお住まいの方や生まれ育ってきた方、特にご年配の方や地元でずっと関わられた方、石狩という歴史に関心を持ってこられた方々の思いを推察すると、例えば、子ども達から案を出してもらって決めるというのではなく、地域の歴史を振り返り、踏まえた上で決めてほしいという方は少なくないと思います。そのあたりのご意見はありませんか。

(B委員)

幅を拡げすぎると、検討する時間がかかりすぎたり、検討する幅が拡がりすぎたりすると考えます。在校している児童生徒だけではなく、統合に関わる先生や関係者の方、これから入学する年齢の子など、ある程度制限した中で応募する形がいいと思います。

(C委員)

私は、両校の児童と地域の人から募集するのがいいなと思っています。

(D委員)

地域の人の声というのはどういう集め方をするのですか。例えば、学校のホームページを利用するとか、地域限定の回覧で集めるなどの方法があるかと思います。私は地域の声を聞くのは大切ですし、市民の方には公募をしていたということが残るような配慮は必要だと思いますが、募集の仕方をあまり広範にしすぎないほうがいいと思います。

(C委員)

いっぱい配って一人一つずつ書いてくださいという大変になると思います。応募したい人は自ら進んで応募すると思いますので、告知は広報や回覧で広く行い、集約する方法としては書いた紙を学校に持ってきてもらうというやり方にしてはどうでしょうか。

(D委員)

該当する町内会で統一の用紙を作って、いい案があれば書いてくださいという感じでいいのではないのでしょうか。

(B委員)

公募の周知文の中に、応募方法（送り方）を一言付け加えておけば、郵送などでも出してくるのではないかと思います。

(委員長)

対象をある程度限定して公募する方法がいいというご意見をいただいていると感じておりますが。

(B委員)

石狩市全体を対象にすると広すぎると思うので、今回の統合に関わる地域を対象にして、町内会単位で動いた方がいいと思います。そして、最終的には設立準備委員会で、皆さんからいただいた校名の案から決定するという形をとったほうがいいと思います。

(委員長)

公募するといろいろな校名が出てくると思います。先程の資料にもありましたが、昨年開催した地域説明会の中で、この地域の小学校の歴史を考えれば、石狩小学校は閉校して八幡小学校と統合するが、「石狩」という名前は残してほしいというご意見をいただいていた。その意見は地域の方の思いだと思いますので、そのことを考えてほしいという思いを持って発言されたのだなど、私は当時聞いておりました。ここでは公募という考え方が多いようですが、この委員会でいくつかをあげて、それを町内会ですとか地域の方にどうでしょうかと投げかける形もあると思いますがどうでしょうか。

(市教委：安崎総務企画課長)

委員長が言われた方法でも、最後にこの設立準備委員会で決めるという方法でも、地域の思いは反映されると思います。ただ全部子どもたちの意見だけで決定してしまうと、これまでの歴史や地域の思いが入らない可能性があるのでは、そのようにならない手法で決めていただければと思います。

(委員長)

いろいろご意見をいただきましたが、案2の例2にある「石狩小と八幡小の児童＋地域の方々」、そして先生方、関係者という範囲の中で公募して、応募のあった案の中から検討して決めていくのはこの設立委員会で行うというご意見が出たという押さえでよろしいでしょうか。

(C委員)

私は、この設立準備委員会で3～5つの案を選んで、最終的には児童の投票で決めさせるのが一番いいと思います。

(委員長)

児童に最終的に決めさせるのはどうかという考えもあると思います。子どもたちの学ぶ学校ではあるが、設立するのは大人たちだということではないでしょうか。だとしたら、子どもたちの意見も入った公募ですので、最終的に子どもたちに決めてもらうのはどうかというご意見を持つ方もいらっしゃると思います。そのあたりも含めて、校名の決め方については、継続して検討していくという

ことではいかがでしょうか。

(B委員)

子どもたち(児童)だけでなく、保護者も入った決め方にすれば、ある程度「石狩」という名前も残したいという意見も反映されるのではないかと思います。子どもだけに最終決定してもらうのではなくて、子どもたちの投票ではこんな結果が出ましたというのを準備委員会で話し合っただけでいいと思います。

(委員長)

それは決める過程では子どもたちの意見を十分に反映して、最終的に設立準備委員会で決めるという考えからですね。

(E委員)

これまでの意見にあったように、大人だけで決めると、ありきたりの名前になる可能性があるのので、子どもの意見は十分に反映できるようにするというのでいいと思います。

(F委員)

公募の際には、石狩小と八幡小のほかに聚富小も入れてください。(⇒全体了承)

(委員長)

ありがとうございます。樽川中学校の校名を決める時にも、ずいぶん議論されたようです。地域の先人の方の思いや歴史を感じている地域の方から「耳障りがいい」とか、「流行を追うような校名」ではなく、樽川地区という地域の歴史をもっと尊重してほしいというご意見が多数出されて、地域の方々の粘りがあったと聞いています。そうしたことを考えると、公募を始める時に地域で説明会が開かれるのではないかと思います。そのような意見が出る地域と、そうではない新しくユニークな校名でいいという地域があると思います。結果的にはみんなの合意で決められることにはなりますが、校名を考えるということは設立準備委員会にとってとても大事なことであると確認しなくてはならないと思います。市教委からは、この地域の学校の成り立ちと、統廃合などそれぞれの学校の歴史について資料を出していただいています。そのようなことを踏まえて校名を決めるということも一つの筋だと思います。ただ、このことを子どもたちに問いかけても、あまり関心を示さないと思います。校名を決めるということは今まで受け継いで大切にしてきたものを後世に残すということではなくてはなりません。個人的な意見で恐縮ですが、校名を決めるということがどんな意味があるかということを考えながら、これからの作業をお願いしたいと思います。

⇒引き続き、「校章の決定方法」「校歌の制作方法」について協議

(委員長)

校章の決定方法や校歌の制定方法は学校に委ねているという例が多いとのことでしたが、このことについてはいかがでしょうか。(⇒意見なし)

(委員長)

校章と校歌についても、今後継続して検討していくこととしたいと思います。

○ その他

(C委員)

資料の23ページに「太鼓などの伝統芸能を継承」という記載がありますが、八幡小学校の「なかよし太鼓」が今年度で終わるということがあるのです。私の子どもが小学校に入学したら、太鼓をやりたいと言っているので、PTAの懇談会で残念だという話をしたら、道徳の教科化やプログラミング、外国語などカリキュラムがどんどん増えて、練習の時間が取れないという説明がありました。これからの検討の中で「ふるさと学習」についてもテーマになりますが、どういう授業時間でやるかというようなことが気になります。教育委員会ではどう考えているのですか。

(市教委：松井教育指導担当次長)

ご指摘いただいた地域の伝統芸能や文化の継承についても、教育課程部会の中で今後検討していただくこととなります。更に学校だけでやるのか、地域の教育力を活用するかということも検討しなくてはなりませんし、コミュニティ・スクールの検討課題としても考えていく必要があると考えております。

(C委員)

できることなら、統合する石狩小の子ども達と一緒に、太鼓を続けられるようにしてほしいと思っています。

(F委員)

特別支援学級について、統合によってどうなっていくかも教えていただきたいと思います。

(市教委：佐々木生涯学習部長)

そのようなことも含めて今後検討した上で、基本計画の「第6章 (仮称) 石狩・八幡小学校の教育の概要」の中で決めていくこととなります。

会議録署名

上記会議の経過を記録し、その相違ないことを証するため、ここに署名します。

平成29年11月28日

(仮称) 石狩・八幡小学校設立準備委員会

委員長 戎 屋 健 一